

10月は3R推進月間です

3Rとは環境と経済が両立した循環型社会を形成していくためのキーワードとして、Reduce（リデュース：廃棄物の発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再生利用）の頭文字をとったものです。優先順位はReduce>Reuse>Recycleです。

平成27年度

長野県循環型社会推進大会



開催レポート

『もったいない』を大切に、信州が誇るライフスタイルを！

日時：平成27年10月30日（金） 13:30～16:10（開場13:00）

場所：ザ・ハーモニーホール（松本市音楽文化ホール）小ホール

プログラム

●開会（13:30）

・主催者あいさつ（長野県環境部長 青柳郁生、信州豊かな環境づくり県民会議会長 鵜飼照喜）

●循環型社会形成推進功労者知事表彰

●事例発表

- 1 高木建設株式会社「地域と共に 自然にやさしく、人にやさしく」
- 2 長野県中野西高等学校「長野県中野西高等学校 COL（クリーンオリエンティング）について」

●講演

演題 里山の地域づくりと
多様な主体との連携について
講師 特定非営利活動法人くくのち
副理事長 小中 真道 氏

●パネル展示 13:00～16:10

- ◇長野県
- ◇信州豊かな環境づくり県民会議
- ◇信州リサイクル製品普及拡大協議協会



開会あいさつ

長野県環境部長 青柳郁生

信州豊かな環境づくり県民会議 会長 鵜飼照喜

青柳部長



○長野県廃棄物処理計画では、『もったいない』を大切にして、信州が誇るライフスタイルを！」を基本目標として掲げており、大会のテーマにもなっている。現在、策定中の次期計画では、県民や市町村と一緒に排出抑制に向け取り組んで行くことを大きな柱にしたいと考えている。

○平成 25 年度の長野県の一人 1 日当たりのごみの排出量は 847g で、少ない方から数えて全国 2 位。1 位の沖縄県との差はわずか 18g でミニトマト 1 個分の差になっている。皆様方の協力をいただいて全国 1 位を実現したい。

○本日お集まりの皆さま方にも、生ごみの水切り、マイバッグの持参、食べ残しはしないなど誰もがができる取組が進むよう、家族を始め周囲の方にも声掛けし、ごみ減量日本一の長野県を目指して協力願いたい。

鵜飼会長



○信州豊かな環境づくり県民会議は、長野県の美しく豊かな環境を保全し、その恵みを将来の世代に継承していくために、県民・事業者・関係団体・行政等様々な主体の参加と連動により環境美化運動や情報提供等に取り組んでいる。

○本年度の新たな取組としては地球温暖化防止活動の推進を目的に取り組んでいる「信州クールシェアスポット」の中で、シールラリーを実施したほか、9月19日に「人と生きもの つながり創生 全国フォーラム」を開催した。

○この他にも環境美化運動や啓発活動を通じて、自ら率先して環境保全に取り組むとともに、県民の意識が高まるよう努めている。

○循環型社会を形成するためには、県民・事業者・関係団体・行政が、それぞれの役割を踏まえて相互に協力し、ごみの減量化を一層進めていくことが大事。

○本日参集された皆様は、3Rについて学び、自ら行動し、また周囲の方にも3Rの必要性や実践方法を広めていただきたい。

○こうした地道な取組の積み重ねが、自然と人が共存し、環境への負荷の少ない継続のできる発展だと思っている。

循環型社会形成推進功労者知事表彰

「循環型社会形成推進功労者知事表彰」は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化の分野において、取組を推進し、啓発、指導、教育など活動を継続し、すぐれた功績を挙げている事業者、個人、グループ及び学校等を表彰するもので、平成16年度から実施しています。

平成27年度は、「事業者の部門」において5名、「個人・グループ・学校の部門」において4名、その他の部門において5名、合計14名の皆様へ知事表彰が授与されました。

(敬称略)

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
事業者	リコージャパン株式会社 長野支社	長野市	アルミ缶や古紙を回収し、収益を環境保全団体に寄付するとともに、森林保全活動に参加するなど地域貢献にも取り組んでいる。また、「ながのエコ・サークル」の取組を継続するとともに、ISO14001を取得するなど、環境負荷の低減と省資源化に尽力している。
事業者	富士ゼロックス 長野株式会社	長野市	補修部品の輸送に繰り返し利用できるリターナブル包装箱を用いることにより、梱包材を削減したり、電子機器や自社の文書管理システムを活用して紙文書を削減している。また、「ながのエコ・サークル」の取組を継続するとともに、ISO14001を取得するなど、環境負荷の低減と省資源化に尽力している。
事業者	高木建設株式会社	長野市	会社周辺及び裏山整備活動や耕作放棄地対策等の地域の環境保全に貢献している。紙のリサイクルを始めとする事業系一般廃棄物の削減と産業廃棄物3R実践協定に基づく産業廃棄物の削減にも取り組んでいる。また、古民家再生を通して環境に配慮した製品提供にも力を注ぐ。更に、「ながのエコ・サークル」及びエコアクション21を取得するなど、地域に根差した企業を目指して積極的に環境活動を展開している。
事業者	共和アスコン株式会社	安曇野市	産業廃棄物の収集運搬業及び処分業を行うとともに、エコアクション21を取得し、優良産業廃棄物処理業者に認定されるなど関係法令を遵守し適正処理に努めているほか、地域社会と協力し循環型社会形成の構築に取り組んでいる。
事業者	株式会社 ワールド重機 開発	上田市	産業廃棄物の収集運搬業及び処分業を行うとともに、エコアクション21を取得するなど関係法令を遵守し適正処理に努めているほか、環境コンサルティングにより顧客と共に環境保全に取り組み、循環型社会形成の構築に努めている。また、NPO法人共に不法投棄撲滅を目的としたごみ拾いを毎月実施している。
個人・ グループ・ 学校 (学校)	長野県中野西 高等学校	中野市	学校創立以来の伝統行事として、中野市内の名所旧跡を巡りながら、空き缶やごみを収集するクリーンオリエンテーリングを実施し、地域貢献と環境美化を進めている。ユネスコスクールに承認され、ESD(持続発展教育)の一環として環境教育にも積極的に取り組んでいる。
個人・ グループ・ 学校 (グループ)	澤柳 博	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。

部門	被表彰者名	所在地等	活動の概要
個人・グループ・学校 (個人)	古賀 寛	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。
個人・グループ・学校 (個人)	中沢 裕昌	松本市	永年にわたり地区町会衛生部長として、環境美化のため一日清掃等の清掃活動に率先して取り組んだ。ごみステーションの管理、ごみ分別指導、リサイクルの推進等廃棄物の減量化に取り組むなど、住民の模範となっている。
その他	松林 幸治	長野市	長年裾花衛生センター組合職員及び長野市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。
その他	小林 和夫	長野市	長年犀峽衛生施設組合職員及び長野市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。
その他	清水 学	長野市	長年長野市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。
その他	山本 健司	松本市	長年松本市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理、減量化及び再資源化に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。
その他	竹内 周司	松本市	長年松本市職員として廃棄物行政に従事。誠実かつ積極的、勤勉な態度で従事し、他の職員の模範となった。廃棄物の適正処理及び再資源化に尽力し、循環型社会形成のために貢献した。

○受賞者、鵜飼会長、青柳部長で記念写真



事例発表

テーマ / 地域と共に 自然にやさしく、人にやさしく

発表者 / 高木建設株式会社 取締役 高木 亜矢子 氏



○高木建設は、創業 80 年の総合建設会社で、公共工事が主な工事量を占めているが、住宅や店舗の建築、各種リフォーム工事、古民家再生事業にも力を入れている。

20 年程前に社長が会社周辺のごみ拾いを始めたのがきっかけで、今では社員が率先して環境活動を行っている。

○エコアクション 21 や長野エコサークル・ゴールドランクを取得することによって、社会から信頼され、省エネによって経費節減にも繋がっている。

①環境整備活動 ・裏山の環境整備

②全社一丸となった取組

- ・環境方針、目標の設定と展開
- ・社内で発生するごみの分別、リサイクル
- ・社有車の運行記録表による管理、社内 ECO 表彰 等

③環境に配慮した製品の提供

- ・古民家再生事業 テーマ「古き良きものを後世に伝えていきたい」 古民家や蔵の再利用
- ・茅集めとリサイクル 民家で雪囲いに用いた茅を集めてストックし、茅葺屋根の葺替に使用

③工事現場での取組

- ・産業廃棄物 3 R 実践協定 県と協定を締結。産業廃棄物の減量化、適正処理
- ・低騒音型、排ガス対策型等建設機械の導入
- ・工事現場での環境活動 現場内及び周辺の清掃、ごみ拾い等
- ・油類の流出防止 プラ舟設置の徹底、河川工事における吸着マットの準備 等

④その他の環境活動

- ・薪ストーブ 本社屋への導入、現場伐採木の燃料化
- ・耕作放棄地対策 小川村西山地区において耕作放棄地で西山大豆を栽培
- ・樺の落ち葉提供 会社駐車場の樺の落ち葉を掃き集めて、近隣住民等に提供
- ・緊急災害時の井戸水供給 会社敷地内に掘削した深井戸について地元区と協定を締結

※環境活動に取り組んで良かったこと

- ・社員の環境保全や地域貢献に対する意識が向上
- ・環境活動を通じて「地元地域に根差した会社」というアピール

※今後取り組みたいこと

- ・近年多発する自然災害にも対応するため、従来の環境活動に加えて防災計画や防災対策にも取り組んでいきたい。

事例発表

テーマ / 長野県中野西高等学校 COL(クリーンオリエンテーリング)について
発表者 / 長野県中野西高等学校 前生徒会長 関 崇行 さん



○中野西高等学校は、中野平のほぼ中央に位置し、「創造 探求 友愛」の校訓と、「平和的な国家、社会の有為な形成者を育成し、敬と愛と信とに満ちた学園を創る」という教育目標の下、勉学やクラブ活動に励んでいる。

○年間を通じて環境問題や異文化理解を題材に、ボランティア活動や国際交流の中から、生徒が自ら能動的に学習している。

○今回の受賞の要因となったCOL活動を含め、長年培ってきた様々な活動が認められ、平成27年6月に長野県内の高校で初めて国連ユネスコスクールに承認された。

また、長野県21世紀型学力向上モデル校にも認定されている。

○中野西高等学校COL(クリーンオリエンテーリング)活動について

- ・昭和58年の学校創立以来32年続く伝統行事で、環境教育の柱となっている。地域貢献と環境保護の観点から、一度も中断することなく行われている。
- ・毎年5月に開催。ペットボトルや空き缶拾いをしながら、中野市内の名所に設置されたポイントを回り、地点にちなんだ問題を解き、クラス対抗で得点を競う。
- ・平成27年度は中野市合併10周年であり、中野市職員から資源回収の意義や方法についての講義を受けるなど、連携を深めた。
- ・回収量は、ペットボトル13袋(900袋)、アルミ缶20kg、スチール缶40kg。

※COL活動を通じて得た、他人、社会、自然環境との関係性を認識する心と、様々な「関わり」や「つながり」を尊重できる心を持った人間になれること、中野西高校伝統のCOL活動が更に地域に根付き、末永く続いて行くこと、たくさんの方が環境問題に関する世の中になることを願っている。



講演

テーマ / 里山の地域づくりと多様な主体との連携について

講師 / 特定非営利活動法人くくのち 副理事長 小中 真道 氏

○「くくのち」プロフィール

石川県金沢市東原地区の里山を拠点に荒廃農地や竹林の整備等を行い、里山環境の保全及び地域の活性化を目的に活動している。金沢市内の測量会社の社員らが中心となって、平成 19 年に活動開始、平成 22 年 3 月に NPO 法人を設立し、年々取組を充実させてきている。

地域住民はもとより、企業や行政、大学等と連携・協力し、農産物の直売や都市・農村交流の推進から始まって、地産地消の新商品開発、更にはインターンや移住者の受入等活動は多岐にわたり、平成 26 年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」で最優秀の「内閣総理大臣賞」を受賞するなど、過疎地域の活性化に向けた取組は全国的にも高く評価されている。



○金沢市東原地区

金沢市街地から車で 40 分位。富山県境の 36 世帯 76 人、高齢化率 50%超のいわゆる限界集落。

くくのちと地域住民による地域活性化実行委員会による持続可能で自然と共存するまちづくりを目指している。

○ロードマップの設定

- ①地域の魅力に住民自身が気付く
- ②よそ者を受け入れる環境づくり
- ③移住者の受け入れと住民主体のまちづくり
- ④定住促進と生業の確立

○多様な世代や性別のニーズに応える 4 つの場づくり

①農業分野

- ・農業体験：春、夏、秋に 100 人位ずつ受入。

親子、リピーターが多い。

- ・秋のふれあいフェア：500 人が来村。

今年は冬のイベントも予定。

- ・農産物の高付加価値化：人工衛星のデータを用いた水稻栽培。農業の経験則の見える化。
- ・竹材の飼料化：羊や牛を飼育し、肉を商品化。
- ・商品開発：年間を通じて販売できる農産物加工食品の開発。
- ・農産物販売：駅なかやショッピングモールでのマルシェ・朝市等の交流販売

企業の CSR 活動との連携。企業のロゴが入ったシールを貼付した農産物を販売。

1 枚 200 円、一口 250 枚で 5 万円。100 円が生産者に、残り 100 円が地域づくりの活動経費に充てられる。

②生活支援分野

- ・買い物支援：生協と連携。週 2 回の注文・配達により、冷凍食品以外の生鮮食品も購入可能。
- ・地域通貨：地域で採れる木材や竹等を、地域通貨を介して生協の商品購入に充てられる仕組。
- ・空き家活用、移住支援：町会が空き家を登録・仲介。空き家よりも、移住希望者の方が多い。

③環境分野

- ・ 農村・森林環境整備：竹林や耕作放棄地の整備、体験農園の貸与 等
- ・ 金沢産ダンボールコンポストの製造・普及活動：
もみ殻と里山保全活動で出た竹くん炭を使用。金沢市内全 62 校区で普及活動を実施。
4 年間で 3,500 個販売。今のところ年間 30 t ほどの生ごみ削減効果であるが、金沢市長自ら取
組むなどこれからの展開が期待できる。

④人材育成分野

- ・ インターンシップ：
H24：マップ作り、H25：商品開発、H26：空き家調査、H27：移住促進
夏休みの 2 週間に滞在してフィールドワーク。その後もイベントにスタッフとして参加するな
ど自発的に地域に関わる例も増えていて、中には移住した学生もいる。
- ・ コーディネーター育成：
漠然と村おこしを考えている人に対してイメージの具体化を支援したり、実現のためのノウハ
ウを提供

※持続的な地域づくりのため、単なるボランティアではなく、PDCA サイクルに基づく継続性を確保し、
利益よりも社会的課題の解決に重点を置いた収益事業に取り組む社会的企業を目指している。

地域住民も恩恵を受けるだけでなく、住民が市民として主体的に地域資源を活用し地域課題に取り組む
ことで、持続可能な社会が可能になる。

ブース展示

長野県、信州豊かな環境づくり県民会議、信州リサイクル製品普及拡大協議会

- 3 R、レジ袋削減県民スクラム運動、食べ残しを減らそう県民運動の展示
- 信州リサイクル製品の紹介及び展示

